

みてみて

ほっと越谷

特

集

生きづらさを抱える子どもたち

～あなたは一人じゃない～

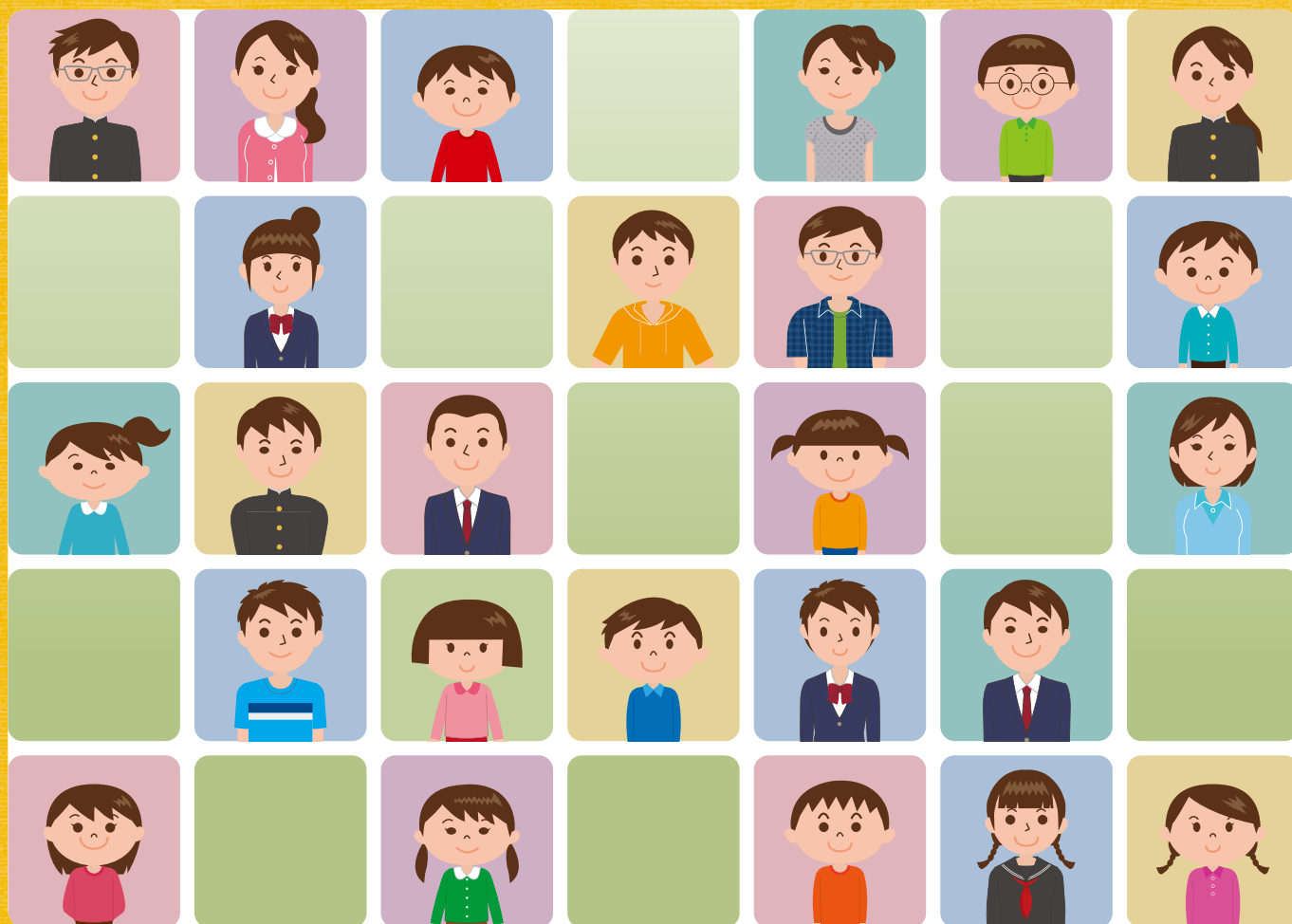


相談室からのメッセージ

「一人で抱えこまないで」

登録団体活動紹介

越谷市学校図書館を考える会／特定非営利活動法人 越谷つばさ



編集・発行 越谷市男女共同参画支援センター「ほっと越谷」

「ほっと越谷」は、越谷市の指定管理者制度導入により、現在は「認定特定非営利活動法人 男女共同参画こしがやとろう」が管理・運営しています。

※この情報誌はホームページ (<https://hot-koshigaya.jp>) でもご覧になれます。

生きづらさを抱える子どもたち

～あなたは一人じゃない～

家庭にも学校にも自分の居場所がなく、生きづらさを抱える子どもたちがいます。生きづらさを抱えるのは特別な子どもだけではなく、誰でも何らかのきっかけで生きづらい状況に陥ることがあります。そんな時、子どもたちは「自分のせいだから」「どうせ誰もわかってくれない」と一人で抱え込んでしまいがちです。今号では生きづらさを抱える子どもたちに対して私たちに何ができるか、考えます。

寄稿 困っている少女から 性的搾取しない社会にするために



仁藤 夢乃 さん

(一般社団法人 Colabo 代表)

プロフィール

1989年生まれ。中高時代に街をさまよう生活を送った経験から、10代女性を支える活動を行っている。夜の街でのアウトリーチ（積極的に対象者の居る場所に出向いて働きかけること）、シェルターでの保護や宿泊支援、シェアハウスでの住まいの提供などを行っている。（一社）Colaboでは、虐待や性暴力被害を経験した10代の女性たちと共にアウトリーチや、虐待や性的搾取の実態を伝える活動や提言を行っている。厚生労働省「困難な問題を抱える女性への支援のあり方に関する検討会」構成員を務めた。TBS「サンデーモーニング」にコメンテーターとして出演中。

Colaboでは、10代女性を中心に、虐待や性暴力被害に遭うなどした少女たちを支える活動を行っています。夜の街で家に帰れずにいる少女たちへの声かけや、渋谷と新宿の夜の街で10代の少女が無料で利用できるバスカフェ「Tsubomi Cafe」を開催。カフェでの食事提供のほかにも宿泊支援、SNSなどでの相談への対応、児童相談所や警察、病院などへの同行支援、一時的・中長期的シェルターの運営などを行っています。

私も15年ほど前、中高生だった頃、父親のDVや母親のうつ病、両親の離婚、虐待などから家が安心して過ごしたり眠ったりできる場所でなく、街を徘徊する生活を送っていました。そうした少女たちに街やネットで声をかけるのは、手を差し伸べようと

する大人ではなく、買春者や性産業へのあっせん者ばかり。今も、夜の渋谷や新宿では、性的搾取を目的とした男性たちが100人以上街に出て、少女たちに声かけをしています。ネットで「家出したい」と書き込めば、10分で20人以上の男性が「泊めてあげる」とコメントし、その中には少女に性暴力をふるう人もいます。その現状は私が子どものころから、変わっていません。

新型コロナウイルスの影響が長期化する中で、普段から社会的に弱い立場に置かれている人たちがさらに苦しい状況を強いられています。非常時には女性や子どもへの暴力が深刻化しますが、3月から学校が休校になり、高校生もアルバイトを減られ収入が激減。外出自粛要請で、自分も親も家にいる時間が長くなったことなどから、親からの支配や、虐待のリスクが高まり相談が増えています。Colaboでは休校要請があった3月から4月末までに250人を超える人から相談がありました。これは、これまでの半年分の件数です。

また、10代であっても、アルバイト代で自身の生活費や学費を稼いで生活している人たちも、新型コロナウイルスの影響でシフトを減らされるなどし、経済的に困窮しています。そうした状況に、性的搾取を目的とした業者や買春者などがつけ込んでいます。

日本では、児童買春について「援助交際」という言葉で、大人から子どもへの援助であるかのように語られてきました。子どもへの性暴力や性的搾取について、そんな呼び方をする国は、他にないでしょう。

そこにあるのは「援助」や「交際」と呼べる関係性ではなく、「支配」と「暴力」であり、人権侵害です。それほどまでに追い詰められる少女たちの背景には、社会福祉が機能していない現状があり、少女たちの性が商品化されるのも女性差別の社会的構造の長い歴史があるからです。

少女の性の商品化の「需要と供給」は「買いたい人と、あっせんしたい人」で成り立っています。しかし、日本では需要側である買春者に目を向けることは少なく、多くの人たちが、子どもの非行問題として、子どもに責任を押し付ける扱いをしています。

「そういう子たちは相談窓口に来ない」と、支援の現場でよく言われます。さまざまなところで傷ついてきたのに、自ら相談機関を調べて、面談の予約を取り、交通費と時間をかけて相談に行くというのは、現実的ではありません。自暴自棄になっている子どもたちの多くは、「大人に諦められた」と感じる経験をしていたり、自己責任の考え方の中で「自分が悪い」と思い込み、声をあげられずにいます。また、児童相談所などの公的機関で不適切な対応をされたり、一時保護所で保護されている間は学校に通えなかったり、「私語禁止のルールを破ったら体育館100周」というところもあるなど、管理のためのルールが子どもたちの自由や権利を奪っている現状もあります。

困難を抱えた少女たちが公的支援を利用するには高いハードルがあり、そうした少女たちを狙う大人たちによって、支援につながる前に危険に取り込まれています。

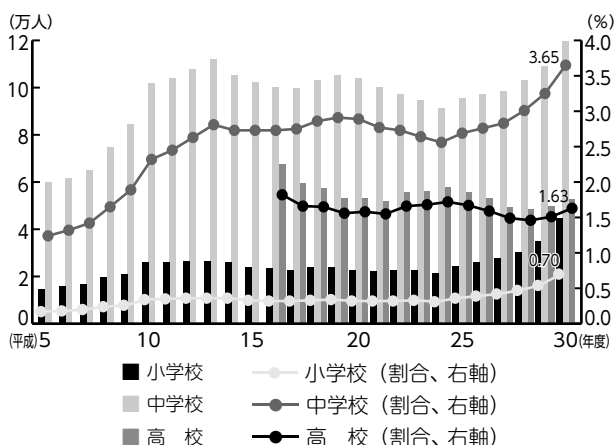
少女たちの中には、自分の困りごとに気づかず、共に状況を整理する大人がそばにいないことで、困ったときに「相談する」ということを思いつくこともできない人がいます。大人たちが彼女たちの声を聞き、彼女たちに責任を押し付けるのではなく、社会の問題として共に声をあげ、少女を性的に消費する社会を変えていかなければなりません。



10代の少女が無料で利用できる Tsubomi Cafe

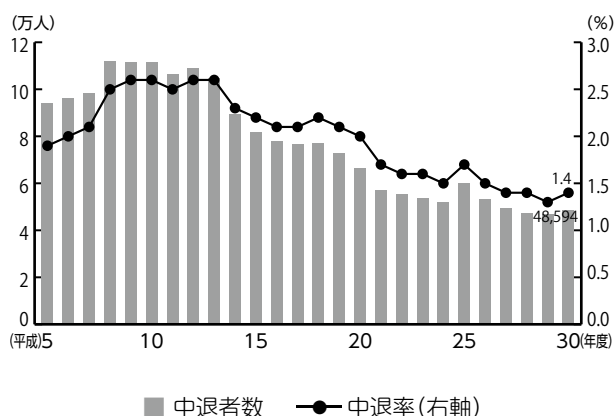
10代の若者に関するデータ

● 不登校の状況



小学校・中学校の不登校は、平成25年度以降6年連続で前年より増加した。

● 高校における中途退学者



高等学校における中途退学者数は約48,594人、中退率は1.4%。

文科省「児童生徒の問題行動・不登校生徒指導上の諸課題に関する調査」平成30年

子どもたちが生きやすい社会にしたい

「困っていても相談できない」「誰に相談していいのかわからない」。困難を抱える子どもは「助けて」というひとことをなかなか発することができません。今号ではいつでも話を聞いてもらえる子ども専用の電話相談を行う団体、不登校などで学校に行けない、行かない子どものために、学校や家庭以外の居場所を運営する団体、子どもに寄り添って支援する大人を増やす活動をしている団体に話を聞きました。

認定特定非営利活動法人

さいたまチャイルドライン

～電話とチャットで心の居場所づくり、子どもが生きやすい社会をつくる～

18歳以下の子どもからの電話相談を受ける「さいたまチャイルドライン」。2001年の開設以来、その活動が広く認知され、今では年間12,000件以上の電話を受けています。現在は電話相談だけでなく、インターネットを使ったチャット相談も実施しています。

代表理事の太田久美さんにお話を聞くと、「子どもから寄せられる相談は学校や部活、性、自分のことについてなどさまざまですが、最近、気になるのは家庭が安心できる場になっていない子どもが増加していること。新型コロナウイルスの感染拡大による外出自粛や一斉休校の影響が大きく、2020年4月度の電話は過去の同時期に比べて急増しました」とのことです。さいたまチャイルドラインでは電話相談の際、子どもの声に耳を傾けることに集中し、子ども自身がエンパワーメントする力をサポートし、気持ちがほっとできる場を提供しています。

同団体では、子どもの声に耳を傾ける大人を増やすことにも意欲的に取り組み、相談員養成講座を開催して支え手を増やす努力を続けています。現在、相談員は80人を超えていますが、もっと多くの電話に応えられるように相談員を養成していきたいとのこと。

太田さんは子どもたちに向けて「決してあなたが悪い訳ではない。自信をなくさないで。あなたのことを大切にしてくれる人がきつといる」とメッセージを送ります。子どもたちをサポートする輪が地域で広がりつつあります。



子どもたちからの
電話相談に対応する相談員

【認定特定非営利活動法人さいたまチャイルドライン】

- 相談電話 (18歳以下の子ども専用)
電話 0120-99-7777 (午後4時～9時)
- チャット (18歳以下の子ども専用)
<https://childline.or.jp/chat/start>
(午後4時～9時)
- 養成講座などお問合せ 090-4439-8401
(午前11時～午後5時)
- ホームページ <http://saitama-cl.jp/>



子どもたちに情報が
届くようにカードを
配布している

フリースクール「りんごの木」

～学校や家庭だけではない、もう一つの家～

越谷市「せんげん台」駅東口にあるフリースクール「りんごの木」を運営する特定非営利活動法人越谷らるご理事長の鎌倉賢哉さんにお聞きしました。

「子どもたちには、家庭や学校だけではない『安心していられる場所』、『もう一つの家』が必要です。ここは、子どもと大人が一緒に作り上げた場所。スタッフは『先生』ではなく人として関わり、寄り添いながら対等な関係で子どもたちと接しています」

フリースクール「りんごの木」は6歳から20歳までが入会でき、学校以外での学び・育ちを提供する場所です。活動の時間割はあるが、参加する・しないは自分で決める。ここでは自分のことは自分で決めるのがルール。そしてみんなのことはみんなで決める。みんなで決めたことはみんなが守ることで気持ちよく過ごすことができるスペースです。

施設内はみんなで料理ができる広々としたキッチン、落ち着いて勉強ができる学習室などがあり、子どもたちは自分のペースで思い思いに過ごしながらくさんのことを学んでいます。

卒業後（もちろん卒業の時期も自分で決めます）は専門学校や大学に行く人、職人になったり就職する人などさまざまですが、ほとんどが卒業するまでに自分の進路を見つけるそうです。

鎌倉さんに、子どもたちに伝えたいことを伺いま

した。「困っていること、つらいことを解決するのは難しいかもしれないけれど、きっとそばにいて、一緒に考えてくれる人はいると思います。一人だけで悩まないでほしい」

今年で30年を迎える「りんごの木」。スタッフが温かく迎えてくれます。

越谷らるごの活動

20歳からの居場所「ほっとりんご」。中学校卒業後、20歳未満まで利用できる「自立援助ホーム ゆらい」。不登校やひきこもり傾向の子どもを持つ親の集いの場「親の会」。県内の6歳以上のひきこもりの相談を受け付けている「埼玉県ひきこもり相談サポートセンター」



「りんごの木」で思い思いに過ごす子どもたち

【特定非営利活動法人越谷らるご】

- 所在地 越谷市千間台東 1-2-1 白石ビル 2階
- TEL 048-970-8881 ■FAX 048-970-8882
- 開所日時 月～金曜日 午前10時～午後6時 ※土・日曜日は休み

kokokara ねっと埼玉

～子どもからのSOSを受け止めるために、「ここからできること」を考えよう～

2019年11月、さいたま市子ども家庭総合センター「あいぱれっと」において、「援助交際」や「JKビジネス*」に関わった女子中高生らの写真や文章などを展示する企画展「私たちは『買われた』展」が開催されました。実施したのは「kokokara ねっと埼玉」。代表の辻仁美さんにお話を伺うと、「2016年に都内でこの企画展を見て少女らの凄まじい体験に衝撃を受け、ぜひ埼玉でも開催したいという仲間

が集まり、団体を立ち上げました。埼玉から多数の少女が夜の都心に行くことも私たちの問題意識の一つでした」といいます。

県・市からの協力を得て開催した企画展への反響は大きく、参加者から「遊ぶ金ほしさの売春と思っていたが、社会のひずみが彼女たちを生み出していることがわかった」などの声がありました。少女を取り巻く大人たちの意識が変わったことがわかります。

団体名「kokokara ねっと埼玉」には「ここからつながろう、変わっていかう、行動しよう、埼玉で」という思いが込められています。企画展をきっかけに、この問題に関心を持つ人たちのつながりがさらに広がりました。今後も埼玉で子どもたちのSOSに気づく大人を増やすための活動を続けていくとのことです。

今、困難な状況にある子どもたちに向けて、「今を生き抜いて！つらいときは誰かを頼って！と辻さん。子どもたちを理解し、共感できる伴走者が今こそ必要とされています。



埼玉で初の開催「私たちは『買われた』展」チラシ。企画はTsubomi (Colaboとつながる少女によるグループ) / (一社) Colabo

* JKビジネスとは、児童の性を売り物とする営業の一つ。主として「JKすなわち「女子高校生」など未成年者を雇い、性的サービスを提供させるもののこと。

【kokokara ねっと埼玉】

- Eメール kokokara.net.saitama@gmail.com
- ホームページ <https://kokokara-net.jimdofree.com/>

市・県・全国の相談先

越谷市

越谷市青少年相談室

<電話相談・面接相談>

非行、ひきこもり、不登校で悩んでいる保護者や悩みを抱える本人の相談等

対象 15～30歳代の青少年とその保護者

所在地 越谷市増林 3-4-1
越谷市教育センター内

TEL 048-964-0272

相談日 火・水・金曜日 午前9時～午後4時
(祝日・年末年始を除く)

埼玉県

子どもスマイルネット

<電話相談>

子ども(原則18歳未満)に関わるさまざまな悩みについて、電話相談を受ける埼玉県の窓口

対象 子ども・大人(子育て相談)

TEL 048-822-7007

相談日 毎日
午前10時30分～午後6時
(祝日・12/29～1/3を除く)

全国

よりそいホットライン

<電話相談>

どんな人の、どんな悩みにも寄り添って一緒に解決する方法を探す、年中無休、24時間通話無料の電話相談。電話相談以外にSNSによる相談にも対応。通話による聞き取りが難しい方にFAX相談あり(FAX: 0120-773-776)

対象 どなたでも

TEL 0120-279-338

SNS <https://moyatter.jp>
(お悩みつぶやきサイト)

相談日 年中無休 24時間対応

運営 一般社団法人 社会的包摂サポートセンター

生きづらさを抱える子どもたちに関する本

図書紹介

「ほっと越谷」の所蔵本の中から、生きづらさを抱える子どもたちを取り巻く社会的課題について理解を深める本を紹介します。



暗闇でも走る

発達障害・うつ・ひきこもりだった僕が
不登校・中退者の進学塾をつくった理由

著者：安田祐輔

発行：講談社

発達障害に加え、父のDV、家庭不和、非行と、生きづらさを抱え居場所のない少年時代を過ごした著者が、多くの人との出会いから「生きる使命」に気づき、学び直しのための進学塾を立ち上げるまでの記録。



生きづらさを抱えるきみへ：

逃げ道はいくらでもある -#withyou-

著者：withnews 編集部

発行：KK ベストセラーズ

生きづらさを抱える10代に向けて、いじめや不登校、DVなどを経験したことのある著名人たちが、自らの経験談として「逃げる」という選択肢があることを伝える。



その子の「普通」は

普通じゃない

貧困の連鎖を断ち切るために

著者：富井真紀

発行：ポプラ社

宮崎で児童虐待防止や生活困窮者への取り組みを事業として実践する著者。「普通の家庭」がわからないという自らの壮絶な半生から、負の連鎖を断ち切るために「当事者にとって必要な支援」を提言。



神さまを待っている

著者：畑野智美

発行：文藝春秋

4年制大学を卒業後、派遣社員として真面目に勤めていた女性が、雇止めをきっかけに職も住居も人間関係も失い、生きるために「ワリキリ＝売春」を考えるまで追い込まれていく。貧困女子の現実を描く長編小説。



漂流女子

—にんしん SOS 東京の相談現場から—

著者：中島かおり

発行：朝日新聞出版

人には言えない、思いがけない妊娠に悩み孤立する女性たちに寄り添う「にんしん SOS 東京」の相談事例から、親との関係性や年齢により制度のはざまに必要な支援から取り残される、未成年であるがゆえの支援の難しさを伝える。



女子高生の裏社会

「関係性の貧困」に生きる少女たち

著者：仁藤夢乃

発行：光文社

危険にあふれた「女子高生であること」をウリにしたアルバイト「JKビジネス」。取材を通じて、家庭や学校に頼れず社会から孤立した少女たちが、「衣食住」や「居場所」を提供され、裏社会に取り込まれていく背景が見えてくる。

「ほっと越谷」ではいつでも本を貸出ししています！

「ほっと越谷」では開所日はいつでも所蔵本を貸出ししています。本人確認できる運転免許証などを提示いただければ、どなたでも借りられます。

- ◆ 1人2冊まで、2週間貸出しできます。
- ◆ 雑誌・ミニコミ誌の貸出しはしていません。

※新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐため、当面の間、利用に際しては、貸出票以外にも、来所者の連絡先等の記入をお願いしています。

相談室からのメッセージ

一人で抱えこまないで

相談室には10代後半から80代までと幅広い年齢層の方が来所されます。

世代別では、30代、40代の方々が過半数を占め、学齢期の子がおり、子の養育、転校・就学問題や経済的な不安など複数の悩みを抱えています。

20代前半の方からの相談の多くは、「インターネットのマッチングアプリやSNSなどで知合った相手とのトラブル」や「交際中から暴力をふるわれていた」などで、学校での早期からの予防・啓発教育の重要性を痛感します。

中には、「長年にわたる両親からの虐待を逃れて一人暮らしを始めたけれど、居場所を知られたくない」、「10代で妊娠、結婚したが夫から暴力をふるわれている」、また「親兄弟からの性暴力被害のトラウマに苦しむ」など、非常に深刻な苦悩を抱えている方がいます。本人にはどうすることもできなかった10代の過酷な経験が、そのままその後の生きづらさにつながっている方々といえるでしょう。

そのような彼女たちに少なからず共通するのは、周囲に頼れる大人がいないことです。親の精神疾患や貧困、DVを目撃しながら、時には自分にも暴力が及ぶような状況を生き延びてきて、信頼できる親族もいないまま育っています。そのため、何か問題に直面したときに「実家に戻る」あるいは「誰かに相談する」という選択肢がありません。

生後間もない乳幼児を抱え、就労経験がない人も多く、若年ゆえに社会的経験も未熟です。また、高校中退や中卒である場合は、彼女たちが経済的にも精神的にも自立をするのは相当な困難が伴います。難しいことですが、「大人」になる支援と「親」になる支援を平行して行うこと、そして何よりも安心して相談できる場があることが大事だと思っています。

彼女たちが一人で問題を抱えこむことのないよう、また自分の人生を切り開いていく力を培えるよう、相談室が誰にとっても身近で開かれた場になるよう努力したいと思っています。

相談無料！
秘密厳守！

**女性の生き方・パートナー相談、
DV相談ができます**
(祝日・年末年始を除く)

● 電話相談

☎ 048-963-9176		☎ 048-970-7415
月～金曜日	水・金曜日	土曜日
午前10時～12時 午後1時～4時	午後5時～8時	午前10時～12時 午後1時～4時 (第4土曜日 午後2時～4時を除く)

● 面接相談 (要予約)

予約電話番号 ☎ **048-963-9176**
(月～金曜日 午前10時～午後4時)

相談時間：午前10時～12時 午後1時～4時

場 所：月～金曜日 越谷市女性・DV相談支援センター
土 曜 日 越谷市男女共同参画支援センター
「ほっと越谷」
(第4土曜日午後2時～4時を除く)

★女性のための法律相談 (要予約)

相談時間：毎月第4土曜日 午後2時～4時

場 所：越谷市男女共同参画支援センター「ほっと越谷」
※事前面接をお願いしています。

越谷市学校図書館を考える会

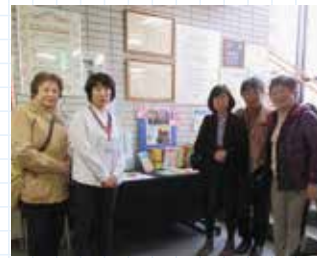
市内全小中学校への学校司書の常置を要望 ～代表の東直子さんに聞きました～

1989年の学校図書館問題研究会第5回全国大会における、「すべての学校図書館に専任の専門職員を」というアピールを受け、同会埼玉支部では「埼玉県小・中学校図書館聞き書き調査」を行いました。越谷市でも文庫などの協力により、全小中学校の図書館を調査しました。これをきっかけに、1990年4月に発足したのが「越谷市学校図書館を考える会」です。

当団体は、図書館全般の充実を願い、学校図書館には専任・専門・正規の学校司書の配置が必要であると考え、毎月第3日曜日に「ほっと越谷」で定例会を行い、越谷市への要請、教育委員会との話し合い、研究集会での発表、図書館見学、図書館講座の開催などの活動を行っています。市内には公立の小中学校が45校ありますが、配置されている学校司書は16人で、1人の司書が2、3校を兼務しています。学校司書が週2日配置されている学校が19校、その他の26校は週1日の配

置にすぎません。そのため、全校に常時フルタイムで司書が配置されることを要望しています。

私たちは図書館で日々10代の皆さんと接し、心に寄り添い、それぞれの思いに叶う本を提供したいと努めています。皆さんが図書館にお越しになるのをお待ちしております。



三芳町立図書館を見学して



「イチオシ本」パンフレット配布に協力しています

【連絡先】越谷市学校図書館を考える会

TEL:090-6311-8969 東 直子 (あずま なおこ)

特定非営利活動法人 越谷つばさ

特定非営利活動法人 越谷つばさは、平和を希求し、環境保全、保健医療、福祉増進をはかり、共生社会づくりの推進を目的に2018年に設立され、現在16人の会員がいます。

活動の柱は、使い終わった市内中学校の制服のリサイクルです。「高価な制服が安く入手できた」と多くの保護者に喜ばれ、誰もが安心して中学校生活を始めるために役立っています。金～日曜日の午前11時～午後4時まで、せんげん台駅近くの多目的ホール「れんが」で、市民が持ち込んだクリーニング済みの制服を会員が販売し、男子用5校、女子用10校ほどの制服を扱い、ブラウス、セーター、カバンなども揃えています。環境保全について学ぶための勉強会も開催し、昨年は大きな問題になっているマイクロプラスチック汚染について考えました。また、市内の休耕地で菜の花を育て、貴重な国産なたね油をつくっています。昨年は12kgのなたねを収穫しました。代表の伊東紀久江さんは「高品

市内中学校の制服をリサイクル

質で安全な国産なたね油を学校給食に使ってもらうのが目標」といいます。

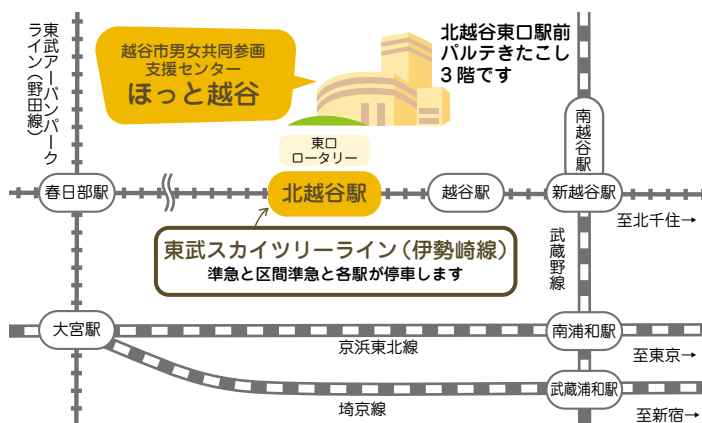
今後は、団体の認知度アップに努め、資源再「れんが」にお届けいただいた制服の陳列と販売生工場などの見学を計画して、環境保全のための学びの機会を増やしていく方針です。



「れんが」にお届けいただいた制服の陳列と販売生工場などの見学を計画して、環境保全のための学びの機会を増やしていく方針です。

【連絡先】特定非営利活動法人 越谷つばさ

TEL:048-971-6807(多目的ホール「れんが」)



※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、「ほっと越谷」の開所時間、講座等に変更がある場合があります。最新の情報に関しましてはホームページでご確認ください。

みみみ ほっと越谷 第47号

令和2年7月1日発行(年2回発行)

編集・発行 越谷市男女共同参画支援センター「ほっと越谷」
(指定管理者 認定特定非営利活動法人 男女共同参画こしがやともろう)

所在地 〒343-0025 越谷市大沢3丁目6番1号
パルテきたこし3階

TEL 048-970-7411 FAX 048-970-7412

E-mail 00941mw@hotmail.co.jp

URL https://hot-koshigaya.jp

開所時間 午前9時～午後9時(日曜日は午後5時まで)

休所日 月曜日、祝日、年末年始
(月曜日が祝日の場合は火曜日も休所)

